

教科	科目	単位数	種別	年次	
地理歴史	地理総合	2	必修科目	2年	
使用教科書	高等学校 新地理総合 ・ 新詳高等地図(帝国書院)			担当者	

学習目標	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。	
学習方法	ワークシートを中心に授業を進め、地図や地理情報システムなどを用いて、さまざまな情報を読み取りながら思考を深める	
	地理的な見方・考え方を活用しながら、諸地域や地球的課題について、多面的・多角的に考察する。	
学習評価	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容
	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。
	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。
	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。
	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。
	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。
	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。
	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
	以上の観点をふまえ、 単元テスト、ワークシート、グループワークの取り組み状況などを総合的に評価します。	
担当者から	ワークシートを活用しながら、ペアワークやグループワークを中心に授業を展開します。自分の考えを積極的に表現してください。 日頃から世の中に興味を持って、新聞やニュースを見ましょう。	

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	地図や地理情報システムで捉える現代世界	地図と地理情報システム	地球上の位置と時差について理解する。	○			○	○				・現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解している。 ・様々な地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。またその情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けている。	・現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現している。	・地図や地理情報システムと現代世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	単元テスト ワークシート グループワーク 小テスト などを元に評価する。
4			地図の役割と種類や有用性について理解する。	○			○	○							
4		結び付きを深める現代世界	現代世界の国家と領域について理解する。	○	○			○				・地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。またその情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けている。	・地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現している。		
5			グローバル化する世界について理解する。		○				○		○				
5	国際理解と国際協力	生活文化の多様性と国際理解	生活文化の多様性や地球的環境の変化によって変容することを理解する。	○				○			○	・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。 ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性について理解している。	・世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	
5			世界の地形と人々の生活との相互依存関係について理解する。	○			○	○							
6			世界の気候と人々の生活との相互依存関係について理解する。	○			○	○							
7			世界の言語・宗教と人々の生活との相互依存関係について理解する。	○					○	○					
8			歴史的背景と人々の生活との相互依存関係について理解する。	○	○					○					
9			世界の産業と人々の生活との相互依存関係について理解する。	○			○	○							
10		地球的課題と国際協力	地球的課題の空間的相互依存作用について理解する。								○	・世界各地で見られる様々な問題を基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解している。 ・世界各地で見られる様々な問題を基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指す各国の取り組みや国際協力が必要であることについて理解している。	・世界各地で見られる様々な地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	
11			地球的課題の解決には各国の取り組みや国際協力が必要であることを理解する。		○						○	○			

12	持続可能な地域づくりと私たち	自然環境と防災	日本の自然環境について理解する。	○					○		○	・日本をはじめ世界各地や生活圏で見られる自然災害を基に、自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性について理解している。	・地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
1			さまざまな自然災害に対応した防災の取り組みについて理解する。	○						○	○	・様々な自然災害に対応したハザードマップや各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付けている。		
3		生活圏の調査と地域の展望	生活圏の調査を基に、地理的な課題やその解決に向けた取り組みについて考察する。		○	○						○	・生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解している。	・生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容などに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みを多面的・多角的に考察、構想し、表現している。

教科	科目	単位数	種別	年次	
地理歴史	歴史総合	3	必修科目	2年	
使用教科書	明解 歴史総合(帝国書院)			担当者	

学習目標	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。	
学習方法	教科書とワークシートを中心に授業を進め、中学校で学んだ歴史をもとにより深く、さまざまな情報を読み取りながら思考を深めて、歴史的な見方・考え方を活用しながら、世界と日本の歴史的つながりについて多面的・多角的に考察する。	
学習評価	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容
	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。
	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。
	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。
	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。
	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。
	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。
	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
		以上の観点をふまえ、 授業の取り組みや単元テスト、レポート、授業プリントへの取り組みなどを総合的に評価する。
担当者から	時数の兼ね合いから題材を選択して進みプリントを中心に授業をおこなう。授業時間を大切に自宅でも復習に励むことを望む。また、歴史総合では国際関係から社会の編成、日常生活の具体的姿や生産のあり方などのなかから、世界と日本の歴史的つながりを主体的、対話的な授業を通して自ら思い考え深めることを目標とする。	

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	第1章近代化への胎動	1. 江戸時代の日本と東アジア秩序の変動	・17世紀を通じて東アジアではどのような体制ができあがったのだろうか。 ・17世紀に成立した日本の江戸幕府と中国の清朝について考える。 ・江戸幕府が対外関係の場とした四つの口について考える。	○	○		○					・本文を読んで江戸時代の日本にどのような身分があり、どのような問題があったかを理解している。	・清の海禁政策緩和がユーラシア大陸全体に与えた影響について、中国とヨーロッパが幅広く交易がおこなわれていたことを多面的・多角的に考察している。	・江戸時代の国際交流について主体的に追究して、「鎖国」で国際関係を絶っていたとすのかつての見方を打破する学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	年複数回の単元テスト 小テスト レポート 授業プリントへの取り組みなどで評価する。
4		2. 江戸時代の生産・流通と諸改革	・商品作物の生産と流通は、国内外にどのような影響を与えただろうか。 ・江戸幕府の田沼意次と松平定信の2人の政策の違いについて考える。 ・商品経済の発達が生じた江戸時代の経済にどのような影響を与えたのか考える。	○	○		○					・田沼意次の政策を説明することができる。また、アイヌとの交易の様子をまとめることができる。	・北方探検の地図から、田沼意次失脚後も江戸幕府が北方にどのような関心を持っていたのか、政策の継続性という観点から多面的・多角的に考察している。	・田沼意次という個人の政策だけで説明することの問題点を追究して、どの時代においても政策が個人の発案だけではないことを学び、政治の学習など社会生活に活かそうとしている。	
5		3. 幕政の改革と東アジア世界	・欧米諸国の接近に対して日本と清はどのような対応をしたのだろうか。 ・江戸幕府が国内と国外に抱えた問題点(内患外憂)について考える。 ・清と朝鮮の対外関係について考える。	○	○							・18世紀末から19世紀前半にかけて日本列島に來航した外国船に関して、教科書の資料を使って情報を集め、まとめることができる。	・東アジア諸国による欧米諸国への政策に、欧米諸国はどう対応していくのかを、日本・清・朝鮮それぞれの場合に分けて、共通点や相違点をふまえながら多面的・多角的に考察することができる。	・幕政改革が今後の日本と世界との関係を追究して、学習上の課題を解決しようとしている。	
5		4. イギリス産業革命とアメリカ独立戦争	・イギリス産業革命やアメリカ独立戦争は、どのようにはじまり、展開したのだろうか。 ・イギリス産業革命について考える。 ・アメリカ独立戦争について考える。	○	○	○						・産業革命期に発明された品目や役割について情報をまとめることができる。・イギリスの資本主義社会の問題点を説明することができる。・「アメリカ独立宣言」の内容を理解し、アメリカの独立に与えた影響について説明することができる。	・イギリス国内の炭田・鉄の産地・鉄道・運河がイギリス産業革命で果たした役割、イギリスで最初に産業革命が発生した理由について多面的・多角的に考察することができる。・アメリカが独立に向かう決定的な転機はどこにあったかについて多面的・多角的に考察できる。	・「イギリス産業革命やアメリカ独立戦争は現代の社会にどのような影響をもたらしたのだろうか」という問題を追究して、学習上の課題を解決しようとしている。	
5	第2章欧米の市民革命と「西洋の衝撃」	5. フランス革命とウィーン体制	・フランス革命とウィーン体制のもとで、政治体制はどのように変化していったのだろうか。 ・フランス革命について考える。 ・ナポレオン戦争とウィーン体制について考える。	○	○	○						・フランス革命の背景、内容、影響について、説明することができる。	・「フランス人権宣言」と「アメリカ独立宣言」との共通点など当時の政治思想について多面的・多角的に考察することができる。	・フランス革命やウィーン体制などでヨーロッパの人々の国家に対する考えがどのように変化したのだろうか。また、それは日本にどのような影響を与えることになるだろうか。これらの問題を追究して、学習上の課題を解決しようとしている。	

5		6. アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立	・領土拡大の過程で、アメリカ合衆国ではどのような問題が生じたのだろうか。 ・独立後のアメリカ合衆国の発展とその過程で起きた南北戦争について考える。 ・ラテンアメリカの独立について考える。	○	○		○							・アメリカ合衆国と大西洋を挟む英仏などヨーロッパとの関係について、ナポレオン戦争との関連も含め、説明することができる。	・西部開拓の問題点を多面的・多角的に考察することができる。 ・人種問題について今日の問題ともあわせてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・南北戦争後のアメリカ合衆国と独立後のラテンアメリカ諸国にはどのような問題が残されたのだろうか、また19世紀に限ることなく、現代にも通じる問題点について追究し、学習上の課題を解決しようとしている。
6		7. オスマン帝国の衰退とロシア	・東方問題を通じて、ロシアやオスマン帝国にはどのような変化が生じたのだろうか。 ・オスマン帝国の衰退過程について考える。 ・ロシアの改革とその問題点について考える。	○	○		○							・オスマン帝国の領土の縮小について説明することができる。	・オスマン帝国の領土に進出したイギリス・フランス・ロシアの思惑について、多面的・多角的に考察してレポートなどにまとめることができる。	・かつてオスマン帝国が支配した地中海の沿岸地域では、いまだに政治状況が安定していないところがある。それらの歴史的背景を追究し、どのようにすればよいかという学習上の課題を解決しようとしている。
6		8. アヘン戦争の衝撃と日本の開国	・アヘン戦争で東アジア諸国はどのような対応をせまられたのだろうか。 ・アヘン戦争とインド大反乱について考える。 ・日本の開国とその影響について考える。		○		○				○			・三角貿易の具体的内容、アヘン戦争の原因を説明することができる。 ・太平天国とインド大反乱の起きた地域を説明することができる。	・清の近代化の失敗した理由についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・「日本と欧米との条約が清と欧米との条約と異なる点は何だろうか」という問いに多面的・多角的に考察することができる。	・ペリー来航を契機に日本の政治体制は大きく変わった。政治の変化は経済や文化にも大きく影響を与える。現代においても同様の事例がないか追究し、学習上の課題を解決しようとしている。
6		9. 江戸幕府の滅亡	・将軍や各藩はどのような政治体制をつくろうとしたのだろうか。 ・尊皇攘夷運動の高まった理由を考える。 ・幕末の薩摩藩・長州藩の動き、大政奉還と王政復古について考える。			○		○					○	・当時の政治の変化のなかで民衆はどのような動きを見せたかの情報をあつめてまとめることができる。 ・幕府・長州藩・薩摩藩の動きと関連を説明することができる。	・「江戸幕府がめざした政治はどのようなもので、なぜ薩長側はそれに反対したのだろうか」の問いにグループワークを通じて多面的に考察できる。	・中央政府である幕府と地方政権である藩との関係と現代の日本政府と都道府県との関係を比較追究して、学習上の課題を解決しようとしている。
6	第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成	10. イギリス・フランスの繁栄とイタリア・ドイツ統一	・19世紀後半のイギリス・フランス・イタリア・ドイツでは、どのような政治上の動きがみられたのだろうか。 ・19世紀のイギリスとフランスの繁栄について考える。 ・19世紀後半にイタリアとドイツが統一した経緯や内容を考える。			○		○					○	・ナポレオン三世がめざしたものを説明することができる。 ・イタリアとドイツがどのような地域を包摂しているか情報を集めてまとめることができる。	・社会主義思想が生まれた背景や2つの考え方について、多面的・多角的に考察して表現することができる。 ・イタリアとドイツの統一運動にみられた共通点と相違点を多面的・多角的に考察することができる。	・現在のイギリスやフランスの旧植民地との関係、現代のドイツやイタリアの地域差を19世紀と比較し追究して、学習上の課題を解決しようとしている。
7		11. 明治政府の諸改革	・明治政府は、どのような国づくりをすすめたのだろうか。 ・明治維新の過程を考える。 ・明治新政府の政治を考える。	○	○								○	・権力者が将軍から天皇に変わったことを示すためにどのような方法を用いたのか説明することができる。 ・新政府が税制改革をしなければならなかった事情をまとめ、説明することができる。	・民衆が明治政府の政策をどのようにとらえていたか多面的・多角的に考察することができる。 ・四民平等と徴税や徴兵制度との関係を多面的・多角的に考察することができる。	・女性の地位について現代的な問題と比較して多面的・多角的に考察することができる。
7		12. 日本のアジア外交と国境問題	・日本はどのように国境を画定したのだろうか。 ・明治政府が清や朝鮮とどのような関係を築いてきたか考える。 ・日本の北方と南方の国境の問題や明治政府の台湾・琉球政策について考える。			○	○						○	・「四つの口」の記述にある江戸幕府が築いてきた清と朝鮮との関係と明治政府との違いを説明することができる。 ・江華島事件での日本軍の行為や江華島とソウルとの位置関係をまとめて説明することができる。	・明治政府の朝鮮・台湾・琉球に対する政策の内容と問題点を多面的・多角的に考察し、まとめて表現する。	・現代の日本と朝鮮、日本と沖縄との関係と比較するとともに、アイヌに対しては国連の先住民に対する決議とも照らし、どのような製作を進めていくのが良いか追究し、学習上の課題を解決しようとしている。
7		13. 自由民権運動と大日本帝国憲法	・自由民権運動がめざしたものは、どのような国家だったのか。 ・明治政府の方針と自由民権運動との関係、政党の結成について考える。	○	○								○	・西南戦争が自由民権運動に与えた影響を説明することができる。 ・「秩父事件」について自由民権運動の中でどのような意味を持つのかをまとめて説明することができる。	・「大日本帝国憲法」と「五日市憲法」を比較し、国民の権利の規定を比較して多面的・多角的に考察することができる。 ・「大日本帝国憲法にある「強い君主圏」は、その後の日本にどのような影響を与えたと考えることができる。	・当時の女性の民権家の主張と現代の女性が訴えていることを比較して追究し、学習上の課題を解決しようとしている。

7		14. 帝国主義の時代へ	・欧米諸国は、なぜ帝国主義の政策をすすめたのだろうか。 ・帝国主義について考える。 ・アフリカと太平洋の分割について考える。											○	○		・ヨーロッパ諸国がアフリカのどこを支配したのかを説明することができる。 ・アメリカがアフリカではなく太平洋に進出した理由を、アメリカの国内事情や西洋諸国の動きと比較して説明することができる。	・ヨーロッパの人々の考えはアフリカやアジアの人々をどのように扱うことにつながったのかを多面的・多角的に考察することができる。	・21世紀に入ってもアフリカでの部族対立など紛争が絶えない。その原因の一つは列強によるアフリカ分割と考えられる。その歴史をふまえて、どのような解決方法があるかを追究し、学習上の課題を解決しようとしている。	
8	第4章 帝国主義の時代	15. 朝鮮をめぐる国際関係と日清戦争	・日清戦争は、何を目的にはじまったのだろうか。 ・日本の1880年代から90年代にかけての朝鮮半島進出について考える。 ・日清戦争の過程と台湾征服戦争について考える。											○		○	・日本の朝鮮半島進出について説明することができる。 その際、朝鮮の閔妃と対立した大院君について解説することができる。	・日本の貧民が軍夫として最前線に立った。日本軍人も貧しい家の出身者が多かった。そのような人々が残虐行為に加担した。その背景について多面的・多角的に考察することができる。	・日本と韓国・北朝鮮との関係は良好とはいえない。その要因の一つが19世紀後半からはじまった日本の朝鮮侵略である。どのような解決法があるかを追究し、学習上の課題を解決しようとしている。	
8		16. 日清戦争後の東アジア	・日本と中国や朝鮮との関係は、どのようにかわっていったのだろうか。 ・日清戦争後の日本人の意識の変化について考える。 ・清をとりまく国際情勢や清国の改革について考える。											○	○		○	・「藩閥政治と政党政治」を考え、日本の政治での藩閥の影響について説明することができる。	・「義和団戦争における日本の対応は、その後の中国や朝鮮との関係にどのような影響を与えたのか」を多面的・多角的に考察することができる。	・中国分割の地図をみて、現代に残る影響を追究して、学習上の課題を解決しようとしている。
9		17. 日露戦争と東アジアの変動	・日露戦争の影響にはどのようなことがあるだろうか。 ・日露戦争と日本の韓国侵略について考える。 ・辛亥革命とその影響を考える。											○	○		○	・日露戦争の主な戦場について説明することができる。 ・韓国併合にいたる過程を説明することができる。 ・「孫文と袁世凱」の関係がその後の辛亥革命にどのように影響したかを説明することができる。	・辛亥革命に同調した省が南側に多い理由、清朝側についた省が北に多かった理由を多面的・多角的に考察することができる。	・戦争によって人々の気持ちはどのように変化するのか、国民意識を高揚させるため為政者は国際関係や戦争をどのように利用するのかという問題を追究し、学習上の課題を解決しようとしている。
9		18. 日本の産業革命	・産業革命によって日本の経済と社会は、どのようにかわったのだろうか。 ・日本の産業の発展、都市と農村の社会問題について考える。 ・日本の社会運動について考える。												○		○	・官営八幡製鉄所が稼働した後、日本の産業構造はどのように変化したかを考え説明することができる。 ・「金本位制」を参考に日本がなぜ金本位制を採用しようとしたのかをまとめ、説明することができる。	・日本とイギリスの産業の発達について比較し多面的・多角的に考察することができる。 ・産業の発展にともない拡大した社会運動について、現代の社会との共通点や相違点を多面的・多角的に考察することができる。	・「足尾鉾山鉾毒事件」を背景に産業の発展と公害との関係を考え、現代において公害さらには環境問題を追究し、学習上の課題を解決しようとしている。
9	第5章 第一次世界大戦と大衆社会	19. 第一次世界大戦	・第一次世界大戦は、なぜ世界を巻きこむ戦争になったのだろうか。 ・第一次世界大戦の全容について考える。 ・第一次世界大戦の影響について考える。											○		○	○	・4年間の第一次世界大戦の全容を理解している。 ・第一次世界大戦中に日本がどのような行動をとったのかをまとめることができる。	・第一次世界大戦の原因となる各国の政策や国際関係について考察してみる。	・第一次世界大戦が人々に与えた影響やその後の国際関係などの学習したことを、今日の戦争や紛争が与える影響を意識し、社会生活に活かそうとしている。
9		20. ロシア革命とソ連の成立	・ソヴィエト政権はなぜ人々から支持されたのだろうか、また革命が成功した背景にあったものは何であろうか。 ・ロシア革命の原因や経過について考える。 ・ロシア革命が世界に与えた影響を考える。											○	○		○	・ロシア革命が第一革命、二月革命、十月革命の3段階に分けられる意味を説明することができる。 ・1905年のロシア第一革命から1922年のソ連の結成までの流れを理解している。	・世界はロシア革命をどのように受けとめていたのだろうか、多面的に考察している。 ・対ソ干渉戦争を起こしたのはどのような国であったのか、そしてその国々の思惑について多面的・多角的に考察している。	・社会主義の考え方が現在の世界にどのような影響を与えるのか主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
10		21. 米騒動と大正デモクラシー	・米騒動のなかで人々は何を求めたのだろうか。 ・第一次世界大戦が日本に与えた影響について考える。 ・日本の民衆が政治にどのような形で参加するようになったかを考える。												○		○	・米騒動の広がり、担い手やだれが鎮圧しているかを説明することができる。 ・吉野作造と石橋湛山の2人が語っていることがこの時代においてどのような歴史的意味を持っているか理解している。	・第一次世界大戦が日本経済に与えた影響をレポートにまとめるなど、適切に表現している。 ・吉野の民本主義といまの民主主義の共通点や違いを多面的・多角的に考察している。	・大戦景気によってすべての日本国民が潤ったわけではないこと、現在の景気の指標がすべての人に該当するわけではないことの問題点を追究して、どの時代においても政策が個人に配慮すべきことを学び、社会生活に活かそうとしている。

10		22. ヴェルサイユ体制とワシントン体制	・大戦後の国際秩序はどのような目的で構築されたのだろうか。 ・第一次世界大戦後の国際秩序とヴェルサイユ体制について考える ・ワシントン体制について考える。	○	○	○							・第一次世界大戦によってヨーロッパの地図がどのように変化したのかをまとめることができる。 ・ヴェルサイユ条約の内容と問題点についてまとめることができる。 ・第一次世界大戦後に締結されたさまざまな条約の内容を理解している。	・国際連盟の役割をどのようにとらえていたかを考え、国際連盟がその役割を果たせたのか、ウィルソンの理想は実現したのかということを考察している。	・帝国主義の時代にたくさん置かれた植民地、国際連盟が委託した委任統治領など民族自決をゆるがす行為が今日にもたらしている影響を追究しようとしている。 ・国際社会で発言力を高めたこの時期のアメリカと今日のアメリカとの相違点を追究して、国際社会の問題を考察しようとしている。
10		23. アジアの民族運動	・第一次世界大戦後、アジア各地で民族運動が活発になったのはなぜだろう。 ・トルコやインドではあらたにどのような動きがあったかを考える。 ・朝鮮半島と中国の動きについて考える。			○			○		○	・インドの独立運動の中でガンディーが糸を紡ぎ、独立旗に糸車が描かれている意味とスワデージを要求したこととの関連で説明することができる。 ・朝鮮半島で三・一運動が起きた背景や日本の統治への影響を考察する。 ・中国の国内で国民党・共産党・軍閥がどのような動きを見せたか、日本はどのように関わったのかを説明することができる。	・「東アジアの民族自決を求める動きに対して、日本はどうかかわるべきだっただろうか」を、朝鮮と中国それぞれの場合に分けて、共通点や相違点をふまえながらレポートにまとめるなど、適切に表現している。	・日本が中国や朝鮮半島とどのように関わってきたのかをまとめ、現在の日本と中国、韓国と北朝鮮とのかかわりの問題点を追究して、学習上の課題を解決しようとしている。	
10		24. 第一次世界大戦後の欧米諸国	・第一次世界大戦後の欧米諸国にはどのような動きがみられたらうか。 ・戦間期のヨーロッパの動き、とくにドイツのヴァイマル共和国について考える。 ・1920年代のアメリカ合衆国について考える。	○		○					○	・イタリアのムッソリーニの統治の特徴を説明することができる。 ・ドイツが国際経済の中でどのような状態なのか、欧米との関係について理解している。	・1920年代にあらわれた動きで、現代の社会に影響を与えたものは何だろうか、ヨーロッパ、アメリカの場合に分けて、共通点や相違点をふまえながら多面的・多角的に考察することができる。	・不戦条約が締結された理由、軍縮条約が結ばれた理由、さらに戦争を非合法化する動きの現代的意義を追究して、学習上の課題を解決しようとしている。	
10		25. ひろがる社会運動と普通選挙の実現	・社会運動をになった人々は、何を求めたのだろうか。 ・日本での社会運動の広がり、男性普通選挙と治安維持法制定について考える。 ・協調外交と山東出兵について考える。	○	○	○					・労働争議と小作争議が年によって増減する理由、両者の増減のずれなどの理由を理解している。 ・関東大震災などの予期せぬ災害が社会にもたらす影響を理解している。 ・日本の中国侵略について、中国の国内問題との関係をからめて説明することができる。	・「普通選挙法と治安維持法は、なぜ同時に制定されたのだろうか」という問いを、それぞれの法律の内容と国際的な背景などをふまえながら多面的・多角的に考察することができる。	・今日の女性の問題、さらに広げてジェンダーの問題という今日の課題の問題点を追究して、学習上の課題を解決しようとしている。		
10	第6章 経済危機と第二次世界大戦	26. 世界恐慌と各国の対応	・世界恐慌は各国の経済や人々の生活にどのような影響を与えたのだろうか。 ・世界恐慌と日本への影響について考える。 ・世界恐慌がイギリス・アメリカ・ソ連に与えた影響を考える。	○	○	○					・世界恐慌の影響を受けず、工業生産を伸ばした国はどこだろうか。また比較的早く工業生産を回復させた国はどこだろうという問いに答えることができる。 ・ソ連の計画経済の利点と欠点を説明することができる。	・1929年に世界恐慌がはじまり、1939年に第二次世界大戦がはじまったが、各国が実施した経済政策を比較検討しレポートにまとめるなど、適切に表現している。	・各国が実施したどのような経済政策によつての経済状態の悪化が、諸国の対立を生み戦争につながる可能性のあることを、現在の経済状態や国際関係と比較して追究して、学習上の課題を解決しようとしている。		
11		27. ファシズムの時代	・ヒトラーのひきいるナチ党は何を主張し、どのようにして政権をにぎったのだろうか。 ・イタリアやドイツでファシズムが台頭した理由を考える。 ・ドイツとイタリアの対外進出と各国の対応について考える。		○	○					○	・「ナチ党による国民投票」で、なぜ国民投票を行おうとしたのかを説明することができる。	・宥和政策の問題点をあげ、自分がイギリスの首相であつたら、どのような方法でドイツの領土拡大を抑え込むかを多面的・多角的に考察することができる。	・大衆の支持を得るために国家や権力者がどのようなことを行ってきたかを現在と比較検討し、あなたが一方的な宣伝にだまされないようにするためにどのようにするべきかを追究して、学習上の課題を解決しようとしている。	
11		28. 満洲事変と軍部の対立	・日本はどのようにして国際的孤立の道をすすんでいったのだろうか。 ・満洲事変と「満洲国」の成立、日本の孤立化について考える。 ・日本企業のアジア進出と日本の軍部の発言力の高まりについて考える。	○	○	○					・日本が「満洲国」を建国した意図と日本が溥儀を執政としたねらいも説明し、「リットン報告書」を利用して国際社会の反応もまとめることができる。 ・日本の軍部の発言力の高まりについて説明できる。	・このようななかで、兵士たちがどのような理由で二・二六事件を起こしたのか、その後の日本の行動を多面的・多角的に考察している。	・国際連盟からの脱退や軍部の発言力の高まりに対して、なぜ民衆が支持をしたと考えるかを、21世紀に起きた戦争や紛争でも国家が民衆の支持を気にしていたこととも比較し、学習上の課題を解決しようとしている。		

11		29. 日中戦争と戦時体制	・中国との戦争は、なぜ長期化したのだろうか。 ・日中戦争の内容と影響を考える。 ・戦時下の日本社会について考える。	○								○	・この戦時下、人々がどのようなことを強いられていたのかを当時の日本の状況をふまえてつまとめることができる。	・日中戦争を軍人だけの視点でなく、民衆の視点に立ち多面的・多角的に考察することができる。	・あなたは、戦争への協力を求められたらどのような行動をとるか考察してみよう。
11		30. 第二次世界大戦の勃発	・戦争は、いつどのようにして「終結」したのだろうか。 ・第二次世界大戦の展開をみる。 ・イタリア・ドイツ・日本の敗北について考える。		○							○	・ナチスドイツはユダヤ以外にも、同じドイツ人でも身体障害者や思想家なども弾圧した。ナチスドイツがどのような思想を持っていたかに着目し説明することができる。	・日本が無条件降伏をするまで時間がかかり、原子爆弾の被害も受けた。時間がかった理由を多面的・多角的に考察できる。	・第二次世界大戦下での一般市民に対する人権侵害から何を学ぶべきと考えようとしている。
11		31. 第二次世界大戦の終結	・戦争は、いつどのようにして「終結」したのだろうか。 ・第二次世界大戦の展開をみる。 ・イタリア・ドイツ・日本の敗北について考える。	○	○		○						・「せん滅作戦」で枢軸国がどのように抑圧したのか、また抑圧をした意図、その結果はどうであったのかを説明することができる。	・アメリカが原子爆弾を落とした広島と長崎はどのような共通点があるか。また、東京に落とさなかった理由を多面的・多角的に考察している。	・第二次世界大戦下での一般市民に対する人権侵害から何を学ぶべきと考えるて解決しようとしている。
11		32. 国際連合の成立と冷戦	・国際連合は設立の目的を十分にはたせてきただろうか。 ・国際連合の成立と組織の内容について考える。 ・冷戦について考える。	○	○							○	・「新たな経済秩序の形成」を参考に、安全保障理事会や国際通貨基金などの国際連合に係る機関の役割と問題点を説明することができる。	・第二次世界大戦によりヨーロッパの構図はどのように変化しただろうか、多面的・多角的に考察してレポートなどにまとめ適切に表現している。	・「国際連合憲章前文」を読んで、ここに書かれていることを達成するためには何が必要か、またあなたなら何をするのかという課題を追究し、どのようにすればよいかという学習上の課題を解決しようとしている。
11		33. 日本占領と日本国憲法	・民主化政策によって、日本が戦前からかわったことは何だろうか。 ・GHQの日本占領方針について。 ・GHQの政策と日本国憲法の制定について考える。	○			○					○	・日本の戦争責任について、日本国内の反応やGHQの対応についてまとめ、責任追及が曖昧になった点もふくめ説明することができる。	・日本の民主化・非軍事政策にはどのような成果と課題があったかを多面的・多角的に考察している。	・戦後の改革は日本の出発点となり、現代の日本の礎となっていることを理解している。
12		34. 朝鮮戦争と日本	・連合国の対日占領方針は、朝鮮戦争によってどのようにかわったのだろうか。 ・朝鮮戦争など冷戦が対日占領政策に与えた影響を考える。 ・日本の独立回復と日米安保条約について考える。		○							○	・サンフランシスコ平和条約の内容をまとめて説明することができる。あわせて領土権の放棄をした場所がいつ日本が獲得したのかも理解している。	・朝鮮戦争が日本の再軍備に与えた影響をグループワークを通じて多面的・多角的に考察している。	・朝鮮戦争によって日本の経済は復興した(特需景気)。しかし武器の輸出など問題のあるものだった。日本が平和憲法を持ちながら、軍事協力をどのような形で行ってきたのかを現代においても同様の事例がないか追究し、学習上の課題を解決しようとしている。
12	第7章 冷戦と脱植民地化	35. 植民地の独立	・旧植民地は、どのように独立をはたしたのだろうか。 ・植民地の独立について考える。 ・第三勢力の台頭について考える。		○		○					○	・エンクルマの国連演説からガーナの場所を指摘するとともに、ガーナの独立の影響を理解している。・ベトナムでの旧宗主国とベトナム人との対立の諸段階を説明することができる。	・アジアやアフリカの第三勢力の動きと役割について、レポートにまとめるなど、適切に表現している。	・植民地にした国(宗主国)が、旧植民地の発展のために何をすべきだと考えるかを多面的・多角的に考察して、社会生活に活かそうとしている。
1		36. 米ソ両陣営の動揺	・強大な軍事力をほこった米ソが、影響力を弱めていったのはなぜだろうか。 ・ベトナム戦争とアメリカ社会との関係を考える。 ・社会主義陣営とくにソ連と中国の動揺を考える。		○		○					○	・「Ihavedream」をみて、キング牧師の夢は何であるかを理解している。・中国のプロレタリア文化革命が起きた背景や影響を理解している。	・アメリカの敵は何であったのかを、国際世論の動向にも目を配りながら多面的・多角的に考察している。	・ベトナム戦争が終わって半世紀近くたとうとしているが、ダイオキシンの問題、地雷の除去の問題などが残っている。これをどのように解決するかを主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
1		37. 日本の国際社会復帰と高度経済成長	・冷戦は日本の政治と外交にどのような影響を与えたのだろうか。 ・日本の高度経済成長期を考える。				○	○				○	・日本の55年体制を説明することができる。・日本のアジア諸国への賠償や無償供与の内容、賠償と無償供与の違いを理解している。	・日本の経済成長率と製造業の関係を多面的・多角的に考察している。	・日本の高度経済成長期は冷戦が激しかった時期でもある。日本が韓国や中国と国交を回復したこと、沖縄の返還が実現したことが現在に与えている影響について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。

第8章 多角化する世界	2	38. 石油危機と世界経済	・石油危機以後の世界はどのような変化をみせたのだろうか。											○	○		○	・もの「石油」から石油というエネルギーがかかえる問題を指摘し、それに変わるエネルギーは何がよいのかを説明することができる。	・新自由主義の長所と短所は何だと考えるかを、イギリスと日本の事例を比較検討し多面的・多角的に考察している。	・新自由主義の長所と短所は何だと考え、格差拡大といわれる新自由主義に対して、少ない税金や少子高齢化の日本でどのような政策をとるのがよいのかという問題を追究して、学習上の課題を解決しようとしている。
	2	39. 緊張緩和から冷戦の終息へ	・米ソの動きは冷戦の終結にどのようにかわったのだろうか。 ・緊張の緩和と再燃について考える。											○	○		○	・ゴルバチョフ政権の政策をまとめ、その利点と問題点を説明できる。また、独立国家共同体とソ連の違いも理解している。	・冷戦の終結後、多くの国家が成立した理由は何だろうかを通じて多面的・多角的に考察し、レポートにまとめるなど、適切に表現している。	・現在の中東の混乱と国際社会の関与、米ロの関わり方という現代的な課題を追究して、学習上の課題を解決しようとしている。
	2	40. 日本の経済大国化	・日本の経済大国化と国際的地位の向上について考える。 ・バブル経済はなぜ崩壊したのだろうか。														○	・日本の株価上昇と下落の時期の特徴を理解している。	・低成長時代に必要政策は何だったのだろうかを、多面的・多角的に考察している。	・現代の日本は低成長の時代が続いている。その一方、BRICSなど経済成長をしている国もある。日本が経済発展をするには何が必要かという学習上の課題を解決しようとしている。
第9章 グローバル化と現代世界	3	41. 地域紛争と対立	・冷戦後の地域紛争の原因は何か。 ・冷戦後の世界、民族の対立を考える。											○				・世界の地域紛争について調べ、1つ1つの出来事を理解している。	・多発するテロをなくすためには、どのようなことをすればよいと考えるかを多面的・多角的に考察している。	・紛争や戦争をなくすという目的のために、国家という枠組みでのみ考えることの限界について事例をあげて説明し、平和のためにどのような論点で考えればよいかという課題に対し、グループワークを通じて学習上の課題を解決しようとしている。
	3	42. 国際秩序の変容	・グローバル化がすすむなかで、各国はどのような動きをみせたのだろうか。 ・地域統合の深化やグローバル化への対応について考える。											○	○	○		・EUの拡大について説明することができるとともに、ユーロが使われはじめたことによって、各国の通貨が使われていたときと比べて、便利になった点を理解している。	・国際秩序がどのように変容することで、平和が維持できると考えるか」という問いについて、グループワークをふまえ多面的・多角的に考察している。	・グローバル化の時代のなか、国際的枠組みも変化が求められるようになってきた。どのような枠組みが人類が共生していくのにふさわしいと考えるかという課題を追究し、どのようにすればよいかという学習上の課題を解決しようとしている。

教科	科目	単位数	種別	年次	
地理歴史	地理探究	4	選択科目	3年	
使用教科書	新詳地理探究 ・ 新詳高等地図(帝国書院)			担当者	

学習目標	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。	
学習方法	地図や地理情報システムなどを用いて、地理的諸事象に関して、事象・地域・総合的な視点からアプローチし思考を深める。	
	地理総合で学んだことを活用しながら、テーマを設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	
学習評価	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容
	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。
	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。
	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。
	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。
	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。
	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。
	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
	以上の観点をふまえ、 単元テスト、ワークシート、レポート、グループワークの取り組み状況などを総合的に評価します。	
担当者から	ワークシートを活用しながら、ペアワークやグループワークを中心に授業を展開します。自分の考えを積極的に表現してください。 テーマを設定しながら授業を進めます。日頃から世の中に興味を持ち、課題意識を持って生活しましょう。	

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	現代世界の系統地理的考察	自然環境	自然環境に関わる諸事象の空間的な規則性。傾向性や、地球環境問題について理解する。									・地形、気候などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。	・地形、気候などに関わる諸事象について、場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・自然環境について、よりよい社会の実現を視野にここで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	単元テスト ワークシート レポート グループワーク 小テスト などを元に評価する。
5		資源、産業	資源、産業に関わる諸事象の空間的な規則性。傾向性や、資源、エネルギー、食料問題について理解する。									・資源・エネルギーや農業・工業などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性。傾向性や、資源、エネルギー、食料問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。	・資源・エネルギーや農業・工業などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・資源、産業について、よりよい社会の実現を視野にここで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	
6		交通・通信、観光	交通・通信、観光などに関わる諸事象の空間的な規則性。傾向性や、交通・通信、観光問題について理解する。									・交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信、観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。	・交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・交通・通信、観光について、よりよい社会の実現を視野にここで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	
7		人口、都市・村落	人口、都市・村落などに関わる諸事象の空間的な規則性。傾向性や、人口、居住・都市問題について理解する。									・人口、都市・村落などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、人口、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。	・人口、都市・村落などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・人口、都市・村落について、よりよい社会の実現を視野にここで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	

9		生活文化、民族・宗教	生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象の空間的な規則性。傾向性や、民族、領土問題について理解する。									○	○	○	○	・生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、民族、領土問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。 ・生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・生活文化、民族・宗教について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
10	現代世界の地誌的考察	現代世界の地域区分	各種の主題図や資料を基に、世界をいくつかの地域に区分する方法や地域概念、地域区分の意義について理解する。										○	○	○	・世界や世界の諸地域に関する各種の主題図や資料を基に、世界をいくつかの地域に区分する方法や地域概念、地域区分の意義などについて理解している。 ・世界や世界の諸地域について、各種の主題図や資料を踏まえて地域区分をする地理的技能を身に付けている。 ・世界や世界の諸地域の地域区分について、地域の共通点や差異、分布などに着目して、主題図を設定し、地域の捉え方などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・現代世界の地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
11		現代世界の諸地域	いくつかの地域に区分した諸地域を基に、地域の結び付き、構造や変容などを地誌的に考察する方法について理解する。										○	○	○	・いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域を基に、諸地域に見られる地域的特色や地球的課題などについて理解している。 ・いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域を基に、地域の結び付き、構造や変容などを地誌的に考察する方法などについて理解している。 ・現代世界の諸地域について、地域の結び付き、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・現代世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
1	現代世界におけるこれからの日本の国土像	持続可能な国土像の探究	これからの日本の国土像の探究を基に、日本が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土像を構想する重要性や、探究する手法について理解する。										○	○	○	・現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究を基に、日本が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解している。 ・現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結び付き、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、日本が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現している。 ・持続可能な国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとしている。

教科	科目	単位数	種別	年次	
地理歴史	日本史探究	4	選択科目	3年	
使用教科書	高校日本史(山川出版社)			担当者	

学習目標	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。	
学習方法	教科書の精読ならびに資料の有効活用により、深く理解する態度を養う。	
	課題・資料の内容から問題意識をもって授業に参加する。	
学習評価	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容
	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。
	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。
	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。
	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。
	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。
	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。
	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
		以上の観点をふまえ、 単元テストの成績、課題やレポートの取り組み状況、授業への参加態度などから総合的に評価する。
担当者から	単元ごとのプリントを中心に授業を進める。 ペアワークやグループワークを通して主体的に授業に参加すること。 自ら学習内容をまとめる作業を通して表現・工夫する力を養う。	

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	原始・古代の日本と東アジア	黎明期の日本列島と歴史的環境	日本のあけぼの 律令国家の形成	○			○				○	旧石器文化、縄文文化、弥生文化の成立を基に、歴史的環境と文化形成、原始社会の特色を理解している。	黎明期の日本列島の変化に着目して、多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。	原始・古代の日本と東アジアについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。	単元テストの点数 授業プリント取り組み ワークグループ積極性 レポート作成
		歴史資料と原始・古代の展望	原始・古代をめぐる歴史資料			○			○		○	原始・古代の特色を示す資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	歴史資料の特性を踏まえ、読み取れる情報から、原始古代の特色について多面的・多角的に考察し、表現している。		
		古代の国家・社会の展望と画期	貴族政治と国風文化	○		○				○		貴族政治の展開、平安期の文化、地方支配の変化や武士出現などを基に、古代社会と文化を理解している。	主題を設定し、意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や画期を表現している。		
6	中世の日本と世界	中世の転換と歴史的環境	中世社会の成立			○		○			○	貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の転換を理解している。	時代の転換に着目して、中世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。	中世の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。	
		歴史資料と中世の展望	中世社会をめぐる歴史資料				○		○		○	中世の特色を示す資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能をみに付けている。	歴史資料の特性を踏まえ、読み取れる情報から、中世の特色について多面的・多角的に考察し、表現している。		
		中世の国家・社会の展望と画期	武家社会の成長	○			○		○			日明貿易の展開と琉球王国成立、村落や都市の自立、多様な文化形成などを基に、地域の成長を理解している。	主題を設定し、意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や画期を表現している。		
9	近世の日本と世界	近世への展開と歴史的環境	幕藩体制の成立と展開			○			○		○	織豊政権の政治・経済政策、貿易や対外関係などを基に、中性から近世への時代の転換を理解している。	時代の転換に着目して、近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。	近世の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。	
		歴史資料と近世の展望	近世をめぐる歴史資料				○			○	○	近世の特色を示す資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能をみに付けている。	歴史資料の特性を踏まえ、読み取れる情報から、近世の特色について多面的・多角的に考察し、表現している。		
10							○			○	○				

[illegible]

〔 地 理 歴 史 科 〕 シラバス

北海道北見緑陵高等学校

教科	科目	単位数	種別	年次	
地理歴史	現代の歴史	2	選択科目	3年	
使用教科書	なし			担当者	

学習目標	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		
学習方法	教科書の精読ならびに資料の有効活用により、深く理解する態度を養う。 課題・資料の内容から問題意識をもって授業に参加する。		
学習評価	育成を目指す資質・能力		育成を目指す資質・能力の評価内容
	1	基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
	2	課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。
	3	情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。
	4	自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。
	5	主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。
	6	協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。
	7	自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。
	8	社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
以上の観点をふまえ、 課題やレポートの取り組み状況、授業への参加態度などから総合的に評価する。			
担当者から	単元ごとのプリントを中心に授業を進める。 ペアワークやグループワークを通して主体的に授業に参加すること。 自ら学習内容をまとめる作業を通して表現・工夫する力を養う。		

[illegible]